

【生薬名】 黄連^局 *COPTIDIS RHIZOMA*

【起源植物】 オウレン *Coptis japonica*

【科名】 キンポウゲ科 Ranunculaceae



【別名】

【薬用部分】 根をほとんど除いた根茎

【主成分】 アルカロイド（ベルベリン4.2%、パルマチン、コプチシン）

【薬性】 気味は苦寒、帰経は心肝胆胃大腸に属す

【効能】 ●清熱燥湿・瀉火解毒

●苦味健胃薬、下痢、整腸、食あたりに

●胸苦しく動悸がする、嘔吐、下痢、腹部疼痛など

●1日3～5gを煎じて服用する

●粉末は1回0.3～0.5gを1日3回服用する

●口内炎や口臭には5～8gを水200mlで煎じて冷後うがいする

●中枢抑制（鎮静・運動抑制）、鎮痙、抗消化性潰瘍、降圧、動脈硬化予防、抗炎症、免疫賦活、抗菌の作用が確認されている

●不眠には酸棗仁10g黄連2～3gを煎服すると良い

三黄瀉心湯、黄連解毒湯なども不眠に利用される

【出典】 ●主治心中煩悸。旁治心下痞。吐下。腹中痛。（薬徴）

●黄連 味苦、心を瀉し、痞を除き、熱を清し、眸を明かにし、腸を厚くし痢を止む。薬性歌

【備考】 ●日本産黄連は品質が良くキクバオウレン、セリバオウレン、コセリバオウレンがあるがセリバオウレンが主に流通。

●中国産は峨眉黄連が根茎が大きく安価である

【処方例】 ●黄連湯、温清飲、半夏瀉心湯、左金丸、黄連阿膠湯